

お 泉 水

1999年3月8日

■平成10年度全国図書館大会

平成10年度(第84回)全国図書館大会が平成10年10月21日から23日までの3日間、秋田市で「美の国秋田からの発進—新たな図書館の可能性を求めて—」というテーマのもとで、県内外から1,800名の参加者を得て開催された。第1日目は秋田県民会館(大ホール)で開会式・全体会、第2日目は各分科会、第3日目は全体会、閉会式が行われた。

私の参加した短大・高専図書館の分科会では、職員と予算が少ない図書館でも、急速に増えてきた国内外のデジタル化された情報を使えるように、早急に図書館職員の能力を高める必要があることが強調された。

高専分散会では、高専間で学術雑誌を整理し、共同で購入することを考えるとかなり利用でき、種類数も増えることなど、高専だから実現しやすい、すばらしい図書館づくりが可能になるのではないかと考えさせられた。

全国大会に初めて参加して、参加者名簿の欄で福井県は1人の参加者しかいないことは非常に残念に思った。次年度は滋賀県で開催されることが決まっていますので、少しでも多くの関係者が参加されることを期待します。(福井工業高等専門学校 荒井 進)

■平成10年度全国公共図書館研究集会

◇奉仕部門

11月25・26日の2日間、岐阜市において「図書館運営への住民参加の在り方を考える」をテーマに開催された。参加者は、本県からの8名と友の会1名を含む338名であった。

1日目、基調講演は慶応義塾大学文学部教授の糸賀雅児氏による「社会教育行政の転換期における住民参加の意義—図書館法改正を控えて—」であった。次に、ボランティア、友の会、図書館協議会とスタイルの異なる住民参加の3つの事例発表があった。

2日目は、前日の質疑・研究協議が行われ、積極的な住民参加の難しさを実感した。ボランティアは、安上がりな労働力ではない。する側は見返りを求めてはいけない。受入側の体勢も整っていないのが実情である。また、テーマとは外れているが、ネットワーク型メディアが図書館資料かということについて、関心が集まっていた。

(春江町立図書館 村上 裕子)

◇整理部門

9月17・18日の2日間、大分市において整理部門研究集会が開催された。参加者は196名で本県からは3名が参加した。「総合目録の現状と展望—ネットワークの拡が

りを目指して」を研究テーマに、三重大学人文学部教授柴田正美氏による基調講演「総合目録と書誌コントロール」、3館の事例発表、質疑・研究討議が2日間にわたり行われた。

基調講演で柴田教授より、今後は広範囲にわたって検索が可能で高品位な書誌情報を構築する必要性を指摘された。しかし、現在の公共図書館では、商用MARCの普及、図書館の整理業務の委託が進んでおり、公共図書館独自で高い品質を備えた書誌情報の構築には困難が予測され、今後の課題とされる。

事例発表では、総合目録と物流を連携することで、相互協力の向上に成果を挙げていることが報告された。本県でも総合目録の構築が予定されているが、構築した総合目録をいかに活用していくのか議論する必要性を感じた。(福井県立図書館 島貫 俊秀)

◇参考事務分科会

平成10年度の全国公共図書館研究集会参考事務分科会は「電子情報下におけるレファレンス・サービスの再構築と技能」を研究テーマに、10月1日・2日の両日、熱海市で開催された。参加者は209名で、本県からは2名が参加した。

研究内容は「レファレンス技能の広がり」と職員研修について、「レファレンス・ツールの作成と情報発信について」「電子時代のレファレンス・ネットワークの構築について」等であり、各々分科会形式で、事例発表および討論が行われた。しかし、各図書館の“電子化”への対応には大きな開きを感じられ、違和感を感じる場面もあった。なお、基調講演は「レファレンス・サービスと人的援助との間」(田村俊彦氏・慶応義塾大学文学部教授)であった。(福井市みどり図書館 三上 達也)

◇児童図書館分科会

11月18日・19日の両日「子どもと本の架け橋になろう」をテーマに、広島市で児童に対する図書館奉仕全国研究集会が開催された。

岡山県立大学助教授 桂宥子氏による基調講演があり、トロントの「少年少女の家」で司書として勤務されていた頃の体験をお聞きした。朝一の書架整理、毎日の基本図書読書の時間、月3~4回半日かけての、実践と理論の勉強会など、プロとして良い作品を見抜く目を養う訓練を受けるそうである。又、1冊の本が選択されて書架に並ぶまで1年間かかって検討されたこともあるという。新しい本は、できるだけ早く!! が当たり前になっている現状では信じられない位の慎重さである。

分科会は「地域の中の児童サービス」に出席。図書館をサポートする団体の頑張っている様子が伝わってきた。(大野市図書館 乾 孝子)

改築図書館紹介

間借りからの脱出

美浜町立図書館



私達の町では、「図書館建設」を要望する町民の声が高まっていますが、「博物館・図書館双堂型」建設構想の実現には残念ながらまだ時間がかかるようです。そんな中、当面の凌ぎとして、諸般の事情で空き館となった建物を図書館向きに改造して、昨年11月1日に移転しました。それまでは、図書館とは名のみで、中央公民館の1・

2階の1室ずつの、正に間借り生活でした。しかも、採光も悪く、職員も公民館兼務といった状況でした。

今回、とりあえず間借りから脱出ということになりました。しかし、この建物も決して大きいものではなく、しかも、2階は町誌編集関係の部屋となっていて、横割利用となっています。図書館としては、1階に事務室と共に明るいワンフロアにはなったものの、施設設備としては、まだまだ不十分で、今後、視聴覚教材、コンピューターの整備等も急務となっています。

しかし、この移転を契機に、生涯学習につながる住民サービスに精一杯努めたいと思っています。こんな思いから、移転オープン記念として、「ブックトーク」・夜間開館・県立図書館からの図書借入等に取組みました。

今後、1人暮らしの方等への配本サービス・図書館だよりの充実・読書会の連携育成・団体図書貸出しなど、ソフト面での図書館活動に一層努めていきたいと考えています。
(美浜町立図書館 塩野 薫)

県立図書館・浙江図書館が姉妹図書館協定を締結



平成10年12月24日、浙江省杭州市において、福井県立図書館と浙江図書館は姉妹図書館協定を締結しました。これは、平成5年の「福井県・浙江省友好提携協定」に基づき、平成6年に福井県文化芸術協議団の一員として県立図書館も参加し浙江図書館との話し合いを持ったことを契機に、協議を重ね合意に達したもので、浙江図書館の新館開館式の時期にあわせて行われました。

浙江図書館は、1900年に杭州蔵書楼として設立され、中国で4番目の規模を誇る総合図書館です。現在は新築移転した総館、「四庫全書」をはじめとする古籍を所蔵する狐山路館舎、浙江の地方文献を所蔵する大学路館舎、湖州市に位置し古籍や木版を所蔵する嘉業蔵書楼の4館で構成され、蔵書数は約396万冊にのぼります。この程完成した新館は、総面積4.19ヘクタール、建物面積30,800㎡、蔵書収容能力450万冊と大規模なもので、現代的な設備やコンピュータシステムを取り入れた、先進的で壮観な図書館です。

このように古い歴史と豊富な資料を有する浙江図書館といよいよ具体的な交流が始まるわけですが、その一つとして資料交換を行い、県立図書館新館では「浙江文庫」として環日本海コーナーに設置する予定です。今後、両館の相互協力関係を強め、図書・情報を通じた両省県の交流の新たな場として、友好の輪がさらに広がるよう努力していきたいと思えます。
(福井県立図書館 松井 一代)

図書館におけるマナー

図書館におけるマナーとは、例えば、借りた本は汚損したりなくしたりせず大切にすること。館内で騒いで他人に迷惑をかけないこと。貸出し窓口で借りの手続きをし、約束の期日までに必ず本を返却すること、などが挙げられます。実は、これは子供向けのマナーの本に書いてあることで、それ程難しいこととは思えませんが、学生や大人になってもきちんと守れない人が多いようです。

図書館で騒ぐような人は、きっと電車の中やレストランなどの公共の場においても平気で騒いでいるのではないのでしょうか。返却期限を過ぎてても一向に本を返却しない人は、きっと人から物を借りてもすぐに返さなかったり、借りたことすら忘れてしまう人なのではないのでしょうか。つまり、図書館の利用の仕方を見ていれば、その利用者人間性が分かってしまうと言っても過言ではないような気がします。と書きながら、自分もちょっと反省しております。

挨拶、期限厳守、物を大切に扱う……などいろいろな要素が含まれている図書館におけるマナーをきちっと守るだけでも、いい人間修養になりそうです。

(仁愛女子短期大学附属図書館 吉田 有希)

子供たちのためにできること

以前、高山智津子氏の語りきかせの講演会の中で、子供への語りきかせは、早ければ早いほど効果があるとお聴きし、さっそく我が子にも生後5カ月から絵本を読みきかせました。そのかいあってか、2人の子供は、私が借りてきた本をせっせと読んでくれ、本嫌いの子供をもつお母さんの悩みを聞くにつれ、内心満足感に浸っていたものでした。しかし大きくなるにつれ、徐々に本からコミックへと走ってしまいました。天井まである本棚に見事に(しかもカラフルに)並んでいるのを見るにつけ「これが文学全集だったら……」と思うことしきり。

来年2000年を『子ども読書年』とする構想が固まりつつあるそうです。幼児期からの読書が大切であることは言うまでもありません。しかし、それを継続していくことは、非常に難しいものです。混沌とした時代を迎え、未来ある子供達によい本を与え、本と出会えるきっかけをつくってあげることが、私達の使命のように思います。ちなみに中1の娘は今、赤川次郎にはまってしまい、将来は小説家になるのだと言って、懸賞小説に応募すべく、深夜ペンを走らせています。

(敦賀市立図書館 辻 則子)



図書館員になって

図書館に異動となって、早2年が過ぎようとしています。最初の1年は何がなんだかわけがわからず過ぎ去り、2年目はコンピュータ導入でこれまたわけがわからず過ぎ去ろうとしています。(現在、追い込み段階となっていますが本当に4月から稼働できるか心配です。)

カウンターの中に入って仕事をしていると、いろいろなことが気になります。当町の利用者の方々は、控えめな人が多いのか、書評にのっていたり新刊図書の広報を行っていても、これといって目立った反応はほとんどありません。人の好みは千差万別、十人十色といえますから、私がこの本はとっても面白いと感じていても、「こんな本のどこが」と思われているかもしれません。あまりに気を利かせすぎると、逆に構えられたり、またプライバシーを考慮すると、どの辺に境界をおくのか悩むところです。その辺の反動か、たまに図書について聞かれたりするとついつい口数が多くなってしまいます。

なにはともあれ、ひまつぶしでも「図書館に行ってみよう」とふと思いつかべてもらえるような図書館にしていけたらと思っています。

(高浜町中央図書館 盛次 晃則)

つれづれなるまま一つながって

我が家もやっとインターネットに接続可能になった。

インターネットといえは—その普及に伴い、情報検索の幅が広がり、資料の所在調査がずいぶん便利になった。悲しいかな我が館は情報をもらうだけの一方通行。対等な仲間になるために、早く情報発信したいものだ。

発信といえは—図書館の存在をアピールすることは図書館経営で大切なことである。しかし目先の話題性だけを重要視する姿勢には疑問。目玉は飛び出しても、身体にくっついているもの。鍛えられた身体も充分アピール材料になるはず。目玉おやじにはなりたくない。新規と継続、バランスが大事だと思う。

バランスといえは—ある資料で、いわゆる県立図書館の『市町村図書館支援論』にとても批判的な記述があった。一部の個人的な意見としても、事実誤認や一方的な思い込みが激しすぎる資料を出されるのはきついなあ。広い視野、論理的な構成力、冷静な判断力、意思の疎通等々の必要性を再認識しつつ我が身も振り返って反省。

振り返ってみると—いつのまにか私も古株。我が館に若い人が増え、県内には新館が次々と建っている。他館の方と話をすると、どの館にも同じような困り事があることがわかる。気兼ねなくいろいろなことを話し合える関係になりたいものだ。これが第一のネットワーク。

(福井県立図書館 野田紀代美)

平成10年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会

- 開催日 平成10年7月31日(金) 10時～15時
- 開催場所 ラポーゼかわだ (鯖江市)
- 参加者 福井地区大学図書館協議会加盟館(福井大学、福井医科大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井工業高等専門学校)の館員27名

■研修内容

講演…「日本文化と中国文化の違い」

講師…謝 孟春(福井工業高等専門学校・助手)

近年、国際交流等で各機関ともたくさんの留学生を抱えていることから、日本と中国の生活習慣や言葉の違い等について講演をお願いした。

講演の中で、文字の意味や読み方及び中国の冠婚葬祭等の説明があり、日本と中国文化の違いに一同驚かされた。

(福井工業高等専門学校 荒井 進)

福井県学校図書館協議会この1年

- 5月12日 第1回県学校図書館協議会役員会
(於科技高校)
- 5月27日 全国学校図書館協議会総会
(於東京都)
- 4月～7月
第24回県小中学生読書感想文コンクール
(福井新聞社主催、県SLA後援)
(締切日 6月13日(土))
- 6月1日 第2回県学校図書館協議会役員会
第1回県学校図書館協議会理事会
(於科技高校)
- 7月9日 第3回県学校図書館協議会役員会
- 7月～10月
平成9年度文庫による読書感想文コンクール
(福井新聞社主催、県SLA後援)に参加
- 8月2日 全国学校図書館協議会臨時総会 (於金沢市)
- 8月3日～5日
第31回全国学校図書館研究大会(金沢大会)
(県内より84名参加) (於金沢市)
- 8月20日～21日
第11回近畿学校図書館夏季セミナー(県内より19名参加)
(於大阪府)
- 10月23日 第44回青少年読書感想文全国コンクール県予選を実施
- 1月20日 1998年度読書感想文コンクール県審査会
- 1月29日 第4回県学校図書館協議会役員会
(於科技高校)
- 2月4日～5日
全国学校図書館協議会事務局長会議
(於東京都)
- 2月17日 会誌「福井県の学校図書館」第44号発行
- 2月17日 第5回県学校図書館協議会役員会

第2回県学校図書館協議会理事会

(於科技高校)

(福井県学校図書館協議会事務局長 渡辺 峰一)

平成10年度東海北陸地区公共図書館司書等専門研修

8月31日から9月4日までの5日間、愛知芸術文化センター愛知県図書館において、東海北陸地区公共図書館司書等専門研修が開催された。参加者は158名、うち本県からは2名が参加した。

この研修会は、図書館が社会の変化に対応したサービスの充実を求められている中で、中堅以上の司書を対象に、専門的な図書館業務の知識・技術の向上を図ることを目的として実施されている。

初日は午後から開会式が行われ、主催者の挨拶の後、文部省生涯学習局学習情報課より文部省の図書館振興方策を中心とする行政説明があり、引き続き講義に入った。今回は講演やパネル・ディスカッション等はなく、講義と演習に重点の置かれた研修会だった。

内容は、生涯学習と図書館、情報史の中の図書館、著作権、参考業務、児童サービス、障害者サービス、多文化社会におけるサービス等多岐に渡り、実務に即した研修であった。また、3日には、新館オープンした海部郡蟹江町図書館の見学をした。

今回の研修は、日々進歩・多様化してゆく様々なメディアにどう対応し、また、それらを図書館サービスにどのように生かしていくのかについて認識を新たにす意義のあるものだった。

(福井県立若狭図書学習センター 菅井 清美)

平成11年度研究集会および研修会(予定)

区分	開催地	期 日
全 国 大 会	滋賀県 大津市 草津市	平成11年10月27日～29日
整 理 部 門	大 阪 市	平成11年11月18・19日
奉 仕 部 門	愛 媛 県 今 治 市	平成11年10月14・15日
移動図書館・協力 事業分科会	横 浜 市	平成11年10月7・8日
東海北陸地区 公共図書館 司書等専門研修	福 井 市	平成11年9月(予定)
東海北陸地区公共 図書館研究集会	福 井 市	平成11年9月(予定)
日本図書館協会 地方講習会	三 重 県	期 日 未 定